

## 日本におけるエンゼル像除幕式によせて

リサ・ジョンソン

リチャード・ポール・エヴァンス氏代理人

日本を訪れ、この神聖な地でエンゼル像の除幕式に参列できることを大変光栄に存じます。あの津波が皆さんにもたらした計り知れない喪失を、私たちもともに悼んでまいりました。どんなにか苦悩の時を過ごされたことでしょう。ここに私たちより、深い哀悼の意を表させていただきます。

エヴァンス氏は残念ながら今回、出席することが叶いません。娘さんの出産予定が迫っており、どうしても初孫の誕生のときに近くにいたいということです。エヴァンス氏からは、ここ日本の友人たちへくれぐれもよろしくというメッセージを言付かっております。

さて、このエンゼル像は世界で 118 番目に建てられたものです。エンゼル像とそれが伝えようとする希望のメッセージを、皆さんが暖かく受け入れてくださったことに感謝申し上げます。

何年も前に、エヴァンス氏は『クリスマス・ボックス』という物語を書きました。その中に、ある女性が子供を亡くしてエンゼル像の足元で嘆き悲しむ場面があります。この物語はフィクションなのですが、アメリカではたくさんの人々がその像を探しにやってきました。そこでエヴァンス氏は二人の世界的芸術家、今日、私とともにここにいるジャレド・フェアバンクス、そしてその父のオルソに、家族たちに希望と慰めを与えるエンゼル像を作ってもらえないだろうか、と持ちかけたのです。

完成した像はソルトレーク・シティ墓地に置かれ、1994年12月6日に除幕式が行われました。その時からずっと、この天使はアメリカそしてカナダ全土にその翼を広げ続けています。

エンゼルの顔をご覧ください。空を見上げているでしょう。私たちに顔を上げて、慰めを見出さない、と思い出させてくれているのです。その差し伸べた両手は、愛と慈しみをもって心を通い合わせる大切さを教えてくれます。そして、翼にある「希望」という言葉。それは今日、私たちが皆さんにお伝えするメッセージそのものです。この像が平和と希望のシンボルとなることが、私たちの希望なのであります。

皆さんの善き行いに神の恵みがありますよう。そして、どうかいつまでもこのエンゼル像のもとで平安を見出し、慰めを求める人々に手を差し伸べてくださいますように、お祈りしております。

最後に、このエンゼル像が日本に舞い下りる上で大変なご努力を下さった佐多保彦さんにエヴァンス初め私共の心からの感謝を申し上げます。

ご清聴いただき、ありがとうございました。